

2015年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名							
科目名	教育相談						
科目区分	教職科目	単位数	2単位	開講時期	3年次前期		
必修・選択の別	選択科目(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場での諸問題の現状(文部科学省による定義、具体的発生数・認知数等)について、実態を説明できる。 ・上述の諸問題について、典型的・基本的な対応方法を理解し、具体的に実践することができる。 ・教育相談に関する用語の意味と基礎的な方法を説明できる。 ・カウンセリングの基本的理念や技法を説明できる。 ・子ども理解に関わる主要な心理検査の種類とその特徴について説明できる。 						
日程と内容	<p>4/13 導入講義 (授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示)および「教育相談」の定義の説明</p> <p>4/20 教師に望まれるカウンセリング・マインド ～カウンセリング・マインドとは何か～</p> <p>4/27 教師に望まれるカウンセリング・マインド ～具体的な技法、トレーニング方法～</p> <p>5/2 ～パーソナリティの諸理論、発達①～</p> <p>5/11 ～パーソナリティの諸理論、発達②～</p> <p>5/18 児童・生徒の理解 ～知能検査～</p> <p>6/25 児童・生徒の理解 ～人格検査①～</p> <p>6/1 児童・生徒の理解 ～人格検査②～</p> <p>6/8 児童・生徒の理解 ～カウンセリングの基礎技法～諸問題への対応</p> <p>6/15 諸問題への対応 ～不登校・いじめに対する理解と対応～</p> <p>6/22 諸問題への対応 ～非行に対する理解と対応～</p> <p>6/29 諸問題への対応 ～性的問題に対する理解と対応～</p> <p>7/6 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応①～障がいの基礎知識～</p> <p>7/13 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応②～</p> <p>7/18 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応③</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	<p>暗記が必要な文書については穴埋め形式でその場で書き込む、実際の教員採用試験の過去問による小テストの実施、自分個人の意見を言語化して提出する課題の提示など、授業の内容により主体的・能動的に取り組めるような機会を積極的に設けた。最終試験では90%以上の学生が合格点を取っており、一定の到達度に達していたと言える。しかし、最終試験の放棄者が3名、不合格は3名と十分な到達度に至らない学生も見られた。</p>						
反省点	<p>教員となるために積極的に取り組んでいる学生と、とりあえず教員免許を取得しておこうという学生とで、受講態度が二極化する傾向があると感じた。キャリア教育的観点からの学生への働きかけがより重要であると考え。</p>						
来年度の計画	<p>前年度の講義への反応から、内容が多い箇所は2回に分割した授業にして進度ペースを落とすなど、今年度はより初学者への配慮を多く行なった。来年度も学生の理解度に応じた授業進度となるように配慮して講義を構成したい。また、講義内容についてもテキストの用語を解説・説明するだけに終わらず、関連する最新のデータや情報を提示したり、積極的に自分の意見を書いて表現する取り組みをより多く取り入れていきたい。</p>						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>アンケートの全項目で全科目の平均値を上回った評価が得られており、適切な授業であったと学生は評価しているようである。ただし、予習・復習に関する項目において評価が低い傾向が見られたため、毎回の予習の指定と復習への動機づけを一層極的に行う必要がある。</p> <p>記述による評価では、「レジュメ・板書を用いた授業が分かりやすい」という評価が数名から得られたため、今後も口頭の説明のみではなく、レジュメと板書を併用した分かりやすい説明を心掛けていきたい。</p>						
履修登録者数	36名	定期試験 受験者数	33名	合格者数	30名	合格率	91%